

化粧品の保存効力試験(チャレンジテスト)

日本薬局方 参考情報 保存効力試験法 (参考)

● はじめに

化粧品そのものまたは化粧品に添加した防腐剤の効果を調べる試験方法の一例を紹介します。

化粧品に試験菌を強制的に接種・混合し、経時的に生菌数を測定することで保存効力を評価します。

医薬品、医薬部外品の保存効力試験をご希望の場合は、別途お問い合わせください。



● 試験概要

日本薬局方 参考情報 「保存効力試験法」を一部簡略化して実施します(※)。

合成樹脂容器に入れた化粧品(検体)に、試験菌液を検体の 0.5 %~1.0 %の割合で接種し、混合試料を調製します。混合試料を 20~25 °Cで保存し、一定期間後に混合試料中の生菌数をカンテン平板混釈法により測定します。

※ 菌液未接種試料の生菌数測定、培地性能及び保存効力の判定は省略します。

試験菌	(細菌) <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 13275
	<i>Staphylococcus aureus</i> subsp. <i>aureus</i> NBRC 13276
(真菌)	<i>Candida albicans</i> NBRC 1594
	<i>Aspergillus brasiliensis</i> NBRC 9455
保存期間	14日間及び28日間

● 価格 (税別)

詳細はお問い合わせください。

● 納期(目安)

約 1.5~2 か月

ご依頼のタイミングで変動いたします。

● 検体必要量

250 mL または 250 g 以上

(粉末の場合は 300 g 以上)

● ご依頼時に必要な情報

- ・ 検体数
- ・ 検体の性状
液体, クリーム状, 粉末, シート状,
水溶性(水と均一に混合可能), 親油性など
- ・ 試験菌種
- ・ 保存期間

● ご相談ください

試験菌種や保存期間は変更可能です。
ご相談ください。